



## 第17回 中国中学校選抜卓球大会 in 岡山県笠岡市

2月10日(土)・11日(日)に岡山県笠岡総合体育館で開催された中国中学校選抜卓球大会に、本校女子卓球部が団体の部に出場しました。今回出場するチームは、去年の10月に行われた山口県新人体育大会で、上位3校に入ったチームに出場権が与えられました。本校は決勝リーグで末武中学校に惜敗し2位になり出場資格を得ました。



中国大会では初日の予選リーグで、益田中(島根)・八頭中(鳥取)・倉敷北中(岡山)と対戦し、善戦はしたものの全敗で4位となり、決勝Bリーグ(各リーグ下位2校)となりました。決勝Bリーグでは、小郡中(山口)・可部中(広島)・高屋中(広島)・安西中(広島)・倉敷北中(岡山)・桜ヶ丘中(鳥取)・湖南中(島根)の8校の総当たりで順位を争いました。本校の結果は、3勝4敗で決勝Bリーグの5位でしたが、粘り強く最後まであきらめず戦い抜きました。

夏の選手権大会では、県大会上位2校が中国大会に出場できます。この悔しさをバネにこれからも練習に励み、中国・全国を目指します。応援ありがとうございました。これからもよろしくお願いします。



いろいろなタイプの選手と対戦でき、とても良い経験になりました。結果は少し悔しいけれど、この貴重な体験を日々の生活や次の大会に生かせるよう頑張りたいと思います。壮行会を開いてくださった生徒・教職員の皆さん、また遠く岡山県まで応援に来ていただいた皆さん、本当にありがとうございました。  
卓球部キャプテン

## いざという時に備えて ～不審者対応避難訓練～

2月9日(金)のお昼休みに、『実際の緊急時に冷静に判断・行動することができる』ことを目的に、不審者対応避難訓練を行いました。今回の訓練は、2月の初めに各学級で事前指導をした後に、生徒には日時や場所等を知らせないブラインド型訓練を実施しました。



不審者の発見報告が職員室にあった後、教職員による不審者への対応や緊急放送、関係機関への連絡、生徒の避難行動等を訓練しました。お昼休みの突然の訓練でもありましたが、比較的スムーズに行動できました。ただ、訓練を訓練で終わらせないためにも、もっと真剣に実際の場面を想定した取組が必要だと感じました。

## 『ありがとう』と『おかげさま』に包まれて

2月8日(木)に人権教育参観日を行いました。5時間目に、1年生が震災で人命救助にあったレスキュー隊員の行動とその後の葛藤を描いた「かけがえのない命」、2年生が身近にある様々な違いや世の中にある差別・偏見を考える「男女の人権」、3年生が臓器提供について考える「臓器ドナー」の授業を行いました。



その後、川上中学校開校時から10年間本校に勤務された海頭巖（かいとう いわお）様により、『いのちの使い道』と題して講演をしていただきました。山口県人権推進指針のキーワードである「じゆう（自由）・びようどう（平等）・いのち（生命）」の中から、『いのち（生命）』に焦点を当てた内容でした。開校当時の様子や海頭先生ご自身の癌との闘病生活から見てきたものや考えたこと、感じたこと等、大変貴重であり示唆に富んだお話でした。

川上中学校を築いてこられた教職員や卒業生の皆さん、そして地域の皆様方の思いを引き継ぐとともに、今ある自分の命や皆様との出会いを大切にしながら、川上中学校の発展や自らの成長を決意する有意義な時間でした。

○私は、川上中でみんなに出会えたことに感謝の気持ちをもって、これから過ごしたいと強く思いました。また、「ありがとう」と「おかげさま」の言葉も胸に留めたいと感じました。最後に、「私たちは、生かされて今ここにいる。」という言葉が印象的でした。  
 ○「70万時間の貯金、いつまでもあると思うな。」「元気があれば何でもできる。」「過去を悔やまず、未来を憂えず、今を大切に生きる。」の3つの言葉が心に残りました。  
 ○「笑顔こそ最高の才能」と「感謝とは贈り物を受け取ったときの反応」という言葉を知り、これからも笑顔を大切に、人に何かをしてもらったときに感謝することを忘れずに生活していこうと思いました。  
 【生徒の感想より】

## 地域の講師を招いての調理実習

今年も地域のプロの調理人やパティシエ、食育推進委員さん等を招いて、家庭科の調理実習を行いました。1年生はきんぴらごぼう、2年生は鮭のムニエル、3年生はショートケーキ作りに挑戦しました。生徒は、プロの職人の技術に感動するとともに、調理の楽しさや日頃食事を作ってくれる家族に感謝の気持ちをもちました。



## 受賞おめでとうございます！

山陽小野田市近郷中学校バレーボール大会 3位トーナメント 第1位  
 令和5年度山口県冬季中学生卓球大会  
 中学女子ダブルス B 第2位  
 中学一年女子シングルス C 第3位  
 中学一年女子シングルス D 第2位 第3位  
 山口県学校関係善行者表彰  
 宇部市明るい選挙啓発作品展（習字の部） 選挙管理委員長賞







**今年度最後の学校運営協議会の開催**

2月22日(木)に第3回学校運営協議会を本校図書室にて実施しました。初めに、後期学校評価の結果から、今年度の川上小・中学校の教育活動それぞれの成果と課題について報告しました。各委員さんからは、「新型コロナが5類に移行して、学校行事等に保護者や地域の方々の参加制限がなくなり、連携や交流の広がりにより風通しが良くなった。地域行事等で地域の手が不足している場合、中学生の参加やボランティアをお願いしたい。スマホやゲーム機器の使用時間や使用方法については、子どもたちの教育も大切だが、その使用を認め与えている保護者への研修等が必要であるように感じる。」などの、お気づきや助言をいただきました。その後、今年度作成した「地域連携カリキュラム2」や来年度の学年末休業日の変更、小学校の通知票の変更について報告し、最後に令和6年度の学校経営ビジョン(案)の承認をいただきました。



川上小・中学校は、来年度以降も「地域とともにある学校」と「学校を核とした地域作り」を推進してまいります。皆様のご支援とご理解をよろしくお願いいたします。

令和5年度 宇部市立川上中学校 学校・地域連携カリキュラム 2

川上小・中学校の教育活動の成果と課題を踏まえ、今年度の教育活動の振り返りを行い、来年度の教育活動の計画を立てる。また、地域連携カリキュラム2の作成と承認を行う。

学年	1学期	2学期	3学期	1学期	2学期	3学期	1学期	2学期	3学期
1年	...	...	...	...	...	...	...	...	...
2年	...	...	...	...	...	...	...	...	...
3年	...	...	...	...	...	...	...	...	...
4年	...	...	...	...	...	...	...	...	...
5年	...	...	...	...	...	...	...	...	...
6年	...	...	...	...	...	...	...	...	...

**学校評価アンケート結果(後期)**

【地域連携カリキュラム2】

後期学校評価の集計が終わりましたので、ご報告します。本年度を振り返り、来年度の教育活動が一層充実し、生徒たちの成長に結びつくよう努力してまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。大変お忙しい中、ご協力ありがとうございました。

【肯定率：A評価(そう思う)とB評価(だいたいそう思う)の合計の割合【本校の目標 85%以上】】

【総括】

○前期の評価と比べて、肯定率が高くなった項目が、生徒3項目、保護者10項目となっています。2学期には、運動会や文化祭といった大きな学校行事があったにもかかわらず、生徒の肯定率が期待したほど伸びていないことは、真摯に受け止めなければならないと思っています。新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、ほぼ全ての行事がコロナ禍以前の状況に戻った中、それぞれの教育活動に対する我々教職員の準備等が不十分となった可能性が考えられます。コロナ禍以前の教育活動を単に継承するのではなく、学校教育目標に照らし合わせ、確固たる多目的・目標や信念をもち、教育活動の精査と内容の充実を推進したいと考えます。肯定率を上げることができなかった項目や、肯定率80%を上回らなかった項目については、継続した課題として受け止め、来年度の取組に生かしていきたいと思えます。

## 【学習面】

○『①授業での学び合い学習』では、非常に高い評価が見られる。ペアやグループ活動がどの授業においても行われていることがわかる。一方で、グループ活動に消極的な生徒もいるため、「話しやすい課題を工夫する」、「話しやすい雰囲気作りをする」、「自信がもてるような声かけをする」などをし、さらに学び合い学習の質を高めたい。

○『③ICTの活用』については、昨年度に比べて活用率が上がっており、生徒もタブレット端末の操作になれている。一方で、活用方法がマンネリ化したり、使用する教員が限られていたりするため、研修の機会を設け、各教科で活用の幅を広げていく予定である。

●『④家庭学習』については、保護者、生徒の肯定的意見が70～80%であり、高評価ともとられるが、学習習慣に差があり、家庭で学習する習慣が身に付いていない生徒が見られる。「タブレットを活用して宿題を出す」、「予習・復習の仕方を教える」など、手法を工夫しながら学校として課題を提示するようにしたい。

●『⑤読書習慣』については、前期・後期共に学習面の項目の中で肯定的意見が60%と、低い項目である。保護者も、生徒自身も読書の習慣が身に付いていないと感じていることがわかる。校時表の改定により、KKタイムの時間が短縮され、朝の読書時間が十分確保できなかったことも要因の一つと考えられる。そこで、生徒には「読書をするメリットを伝える」、「図書室からのおすすめの本を紹介する」、「読みたい本のリクエストを募集する」、「図書委員会活動で読書強化月間などを設ける」などの対策を考えている。

## 【生活面】

●『⑥自ら進んで明るく元気なあいさつしている』という項目については、生徒と、教員・保護者との意識の違いが見られ、生徒は進んであいさつをしていると思っているようである。こちらからもあいさつすることはもちろんであるが、あいさつについて話や指導をする中で考えさせていきたい。

○『⑧いじめのない温かい人間関係をつくり、人を傷つける言動をしないよう心がけている』という項目に関しては、肯定的意見が生徒・保護者・教員共に90%を超えているが、些細なことでのトラブルも起きている。引き続きいじめのない、安心・安全な環境作りに尽力していく。

●『⑩地域行事の参加』については、保護者、生徒共に参加していると回答した割合が50%前後と、低くなっている。地域の行事にボランティアとして参加している生徒も固定化しており、生徒一人ひとりが地域の一員であるという意識を高めていけるように、行事の周知や参加への呼びかけを強化したい。また、一年に一度は行事に参加する経験ができるような仕組みを考えるのも良いのではないかとという提案もあった。今後、行事への参加の呼びかけを工夫していきたい。

●『⑬テレビ、ケータイ、スマホ、ゲームなどの使用時間や使用方法を自分でコントロールできているか』という項目では、前回同様に生徒・保護者ともあまりコントロールできていないという結果になっている。ICT機器の危険性については、アウトメディアの期間など機を捉えては声かけをしているが、自分で計画的に使用することができていない。また、SNSで生徒同士のトラブルが学校生活の人間関係にも影響しているケースが見られ、使用に関しては保護者の管理下で使用させることがトラブル防止に繋がっていくことを周知させたい。